

生活環境分科会 審議結果報告書（案）

宇都宮市総合計画審議会

会長 上 西 朗 夫 様

宇都宮市総合計画審議会

生活環境分科会

会長 水 沼 富 美 男

第5次宇都宮市総合計画における分野別計画の策定にあたり、当分科会の所掌する分野について、審議を行った結果を次のとおり報告いたします。

1 「脱温暖化・循環型の環境にやさしい社会を形成する」について

- ・ 地球温暖化対策の推進については、幅広い年齢層が積極的に温室効果ガスを削減する行動を起こすような横断的な啓発が必要である。
- ・ 地球温暖化やごみの発生抑制、減量化、資源化の推進などについては、子どもの頃からの意識付けが必要であることから、様々な機会を通じて子どもやその親に対する効果的な啓発活動を行うことが重要である。
- ・ 家庭版ISOについては、各家庭が主体的に取り組めるよう、事業の進め方や啓発方法などに従来以上に効果的な工夫が必要である。

2 「良好な水と緑の環境を創出する」について

- ・ 快適な河川環境の創出については、河川に親しめる水辺空間に配慮した河川整備を進めることが重要である。

3 「上下水道サービスの質を高める」について

- ・ 「水道水の安心給水の推進」については、市民が安心して水道水を利用できることはもとより、水道水が安全でおいしい飲み水であることをPRしていくことが重要である。

4 「快適な住環境を創出する」について

- ・ 快適な住宅の供給と取得支援の充実については、市民それぞれのニーズにかなった住宅の供給策が必要である。
- ・ 都心部については、既存ストックを活用するなど、民間事業者と協働で景観にも配慮した新たな住宅政策を進めていく必要がある。

5 その他

- ・ 総合計画を策定する中で、重点課題等を全体にまたがるような横断的な位置付けにすることが重要である。
 - ・ 市民・事業者・行政それぞれの主体が積極的に環境問題に取り組めるような施策・事業を講じていく必要がある。
 - ・ 施策・事業を進めるにあたっては、課題や問題点を事前・事後に調査・分析をしっかりと行い、施策・事業に生かしていくべきである。
-

- ・ 良好な居住地という観点での景観形成の施策は取り込まれているが、宇都宮市の重要な財産でもある里山景観や農村景観についても視野に入れて施策を展開することも重要である。
- ・ 産業部門全体においても環境問題への対応は大きな問題であることから、農業分野や商工業分野での環境への取組みを具体的に示して取り組んでいくことが必要である。